へ13
3749
3

門へ13
號3749
卷3

釋迦八相倭文庫五編上

弘化四年未春新版

元大坂町代地
上州屋重藏板

万亭
應賀作

一陽齋
豊國画

釋迦八相倭文庫五編の叙

丈大畫の大蔽顔ハ悪むべし味噌汁のみそ臭ク嫌ふべ
佛身の仏臭ク厭うねど什麼當世の大看官ハ浮世ふつれて
学宮詰の晴小袖も恋ゞ七分で劇場ゞ二分残る一分ゞ免ふ
仏心されゞ此冊子の巻ともその縁の綱ふ聢と含付仏の香
幽かもて貴意ふ合ふて賣るゞ徳と更ふ大人佛者の
非違と殿と殿と釈迦牟尼佛の名を汚し末末
倘極楽へ行まで地獄の呵責を受まゝも穢土へ無
跡ふゝびゝ色と酒との敵ふ遇とあらゞ其も亦予本望
ならんと怯ず顔ゆゝ云支ゝり

弘化四丁未年初春發市

万亭應賀識

提婆達多
魔鬼外道
速疾鬼とかくるひ
悉達太子を
妨んとせ

悉達太子

優陀夷の
女房

摩偈國の魔王法性妙顕

優陀夷
大臣

流肆の拉君
婆須密
夏女
悉達太子
學文の獅
髏頭賢弗

南海國屍那羅城
屍ア力王の皇子
屍紹太子諸國
を修行も

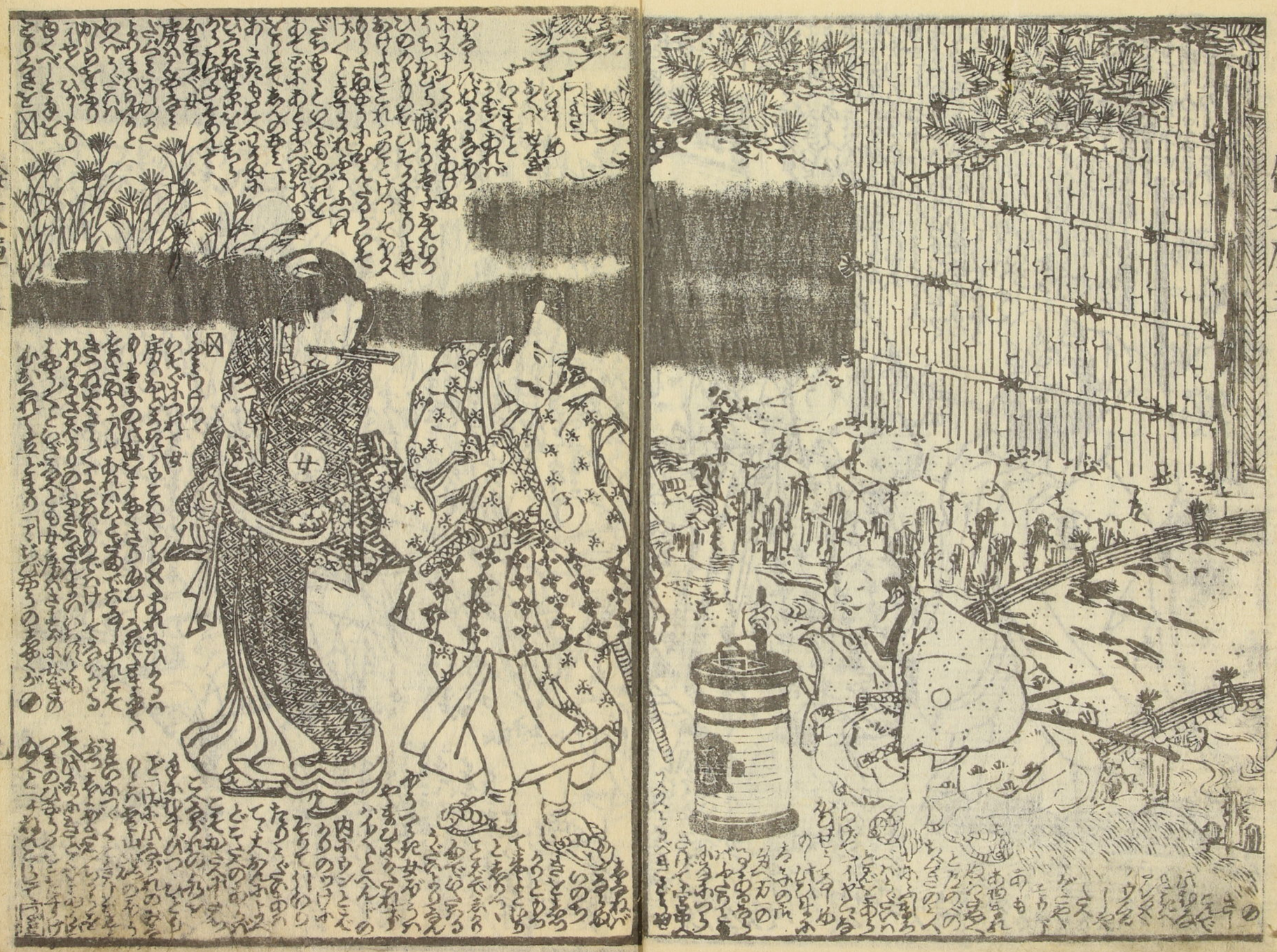
女

太

女
太

左の中へ
右の下へ
右の下へ
左の中へ
右の下へ
左の中へ
右の下へ
太
女
子
賛

女
う



安政三丙辰春新板目録

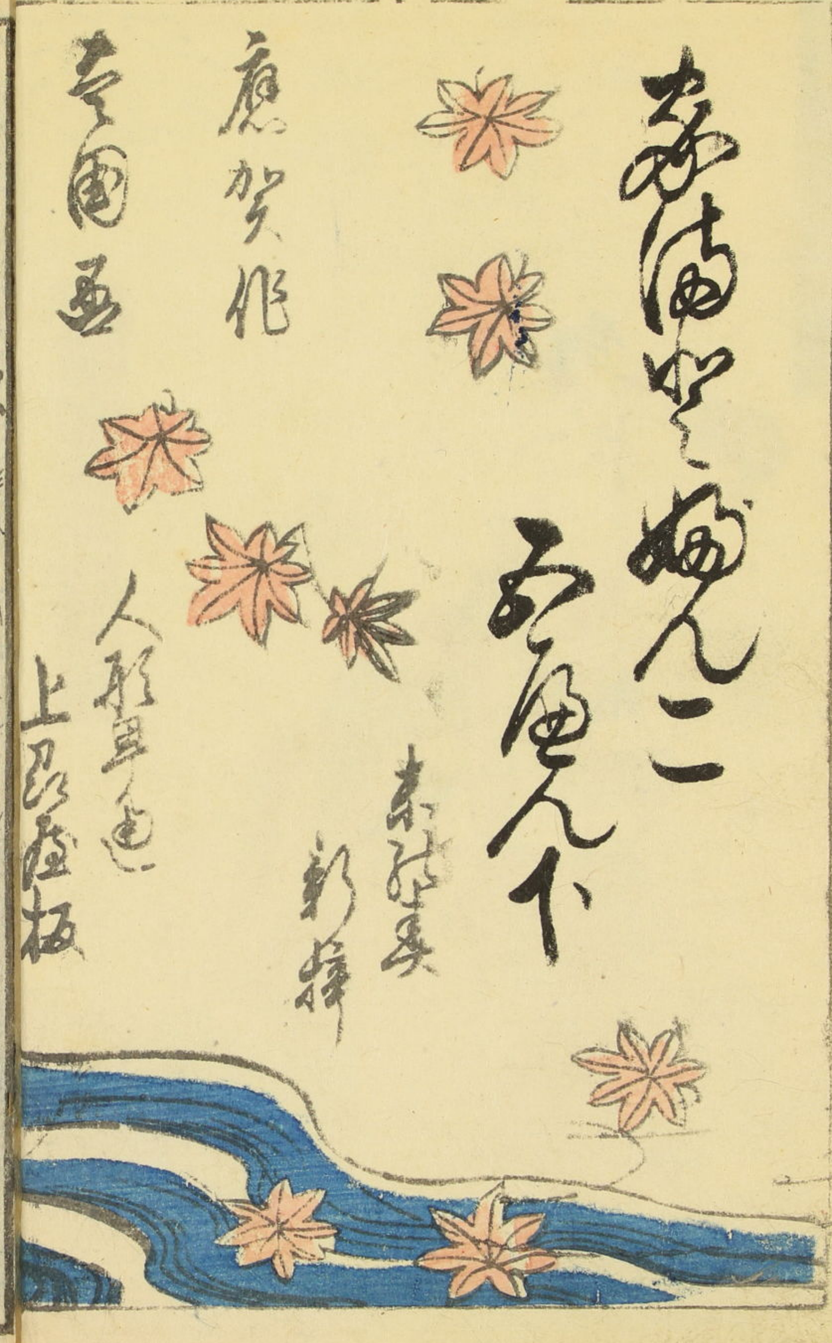
倭文庫 三十四編 三十五編 三十六編 三十七編 万亭應賀作 一陽齋豊國画
赤松譚 九編 十編 如淵外史作 同画
重井菱 六編 七編 為永春水作 同画
譚柄璃璃蔡 四編 五編 西澤一鳳作 一勇齋國芳画
茶番案文 全冊 万亭應賀作 一陽齋豊國画
神代そろは茶 三編 四編 同 一勇齋國芳画

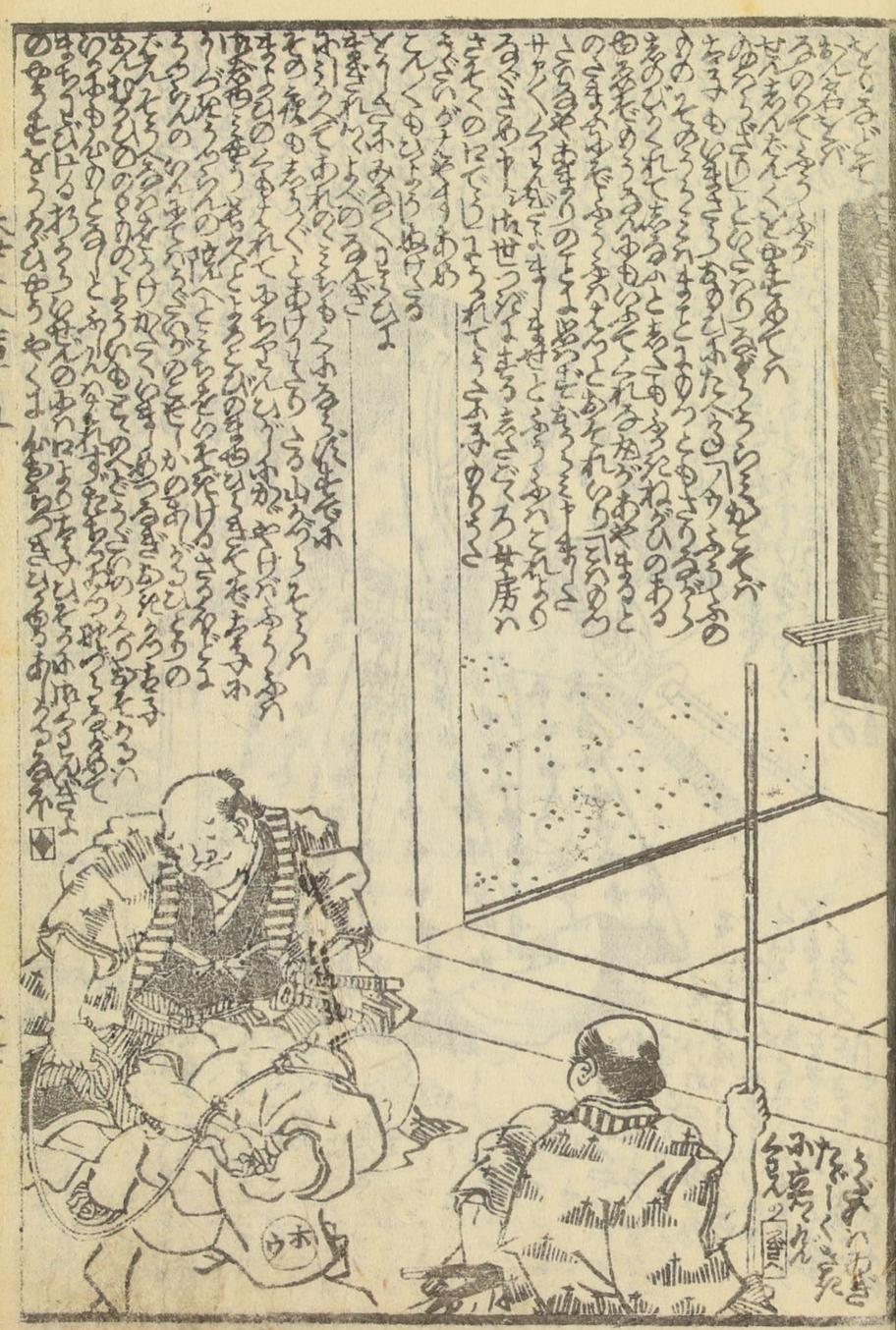
金本類錦繪 上州屋重藏

万亭應賀作

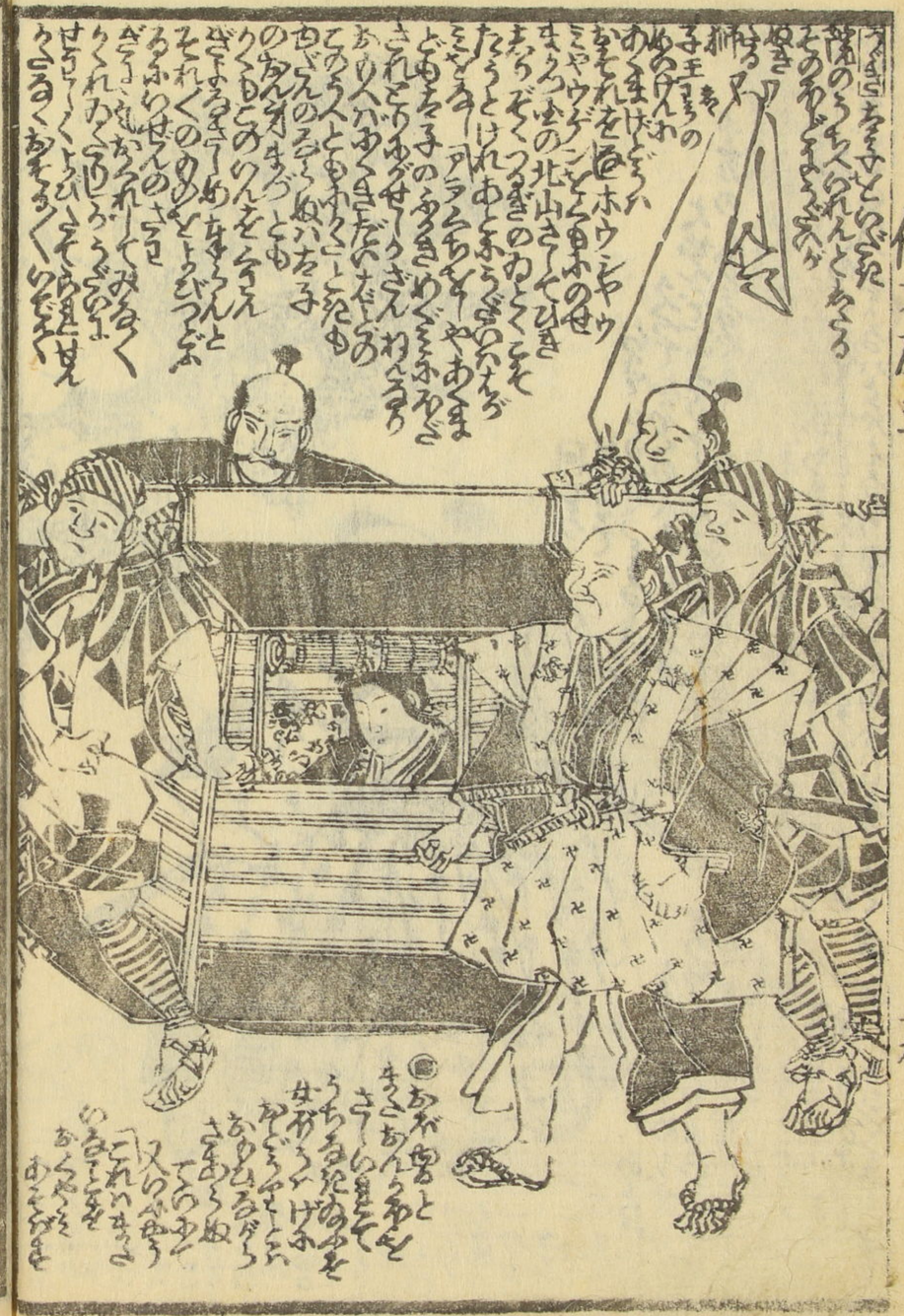
陽齋豊國画

下


春風や堤一面の蒲公英
蕪村
東都 彫師
彩輝
鹿賀作
人形屋
上野屋彫板



軍酒不許山門



一陽齋豐國画　万亭應賀作

安政三年丙辰春新板目録

倭文庫出世双六　万亭應賀作　一陽齋豐國画

春の手遊　将棋双六　同　歌川貞房画

男女振合　役替双六　同　一陽齋豐國画

大寶御江戸圖　極上摺　奉書六枚半續

清元稽古本　初編　二編　出板

常磐津懐中本　初編　二編　三編　四編　追々出板仕り

百枚揃　擬百人一首　極上摺　仕立方とも極上仕り　一陽齋豐國合　東齋國芳　東齋廣重　筆

陽齋豊國画

外題豊国画

万亭應賀作

上

釋迦八相倭文庫六編之序

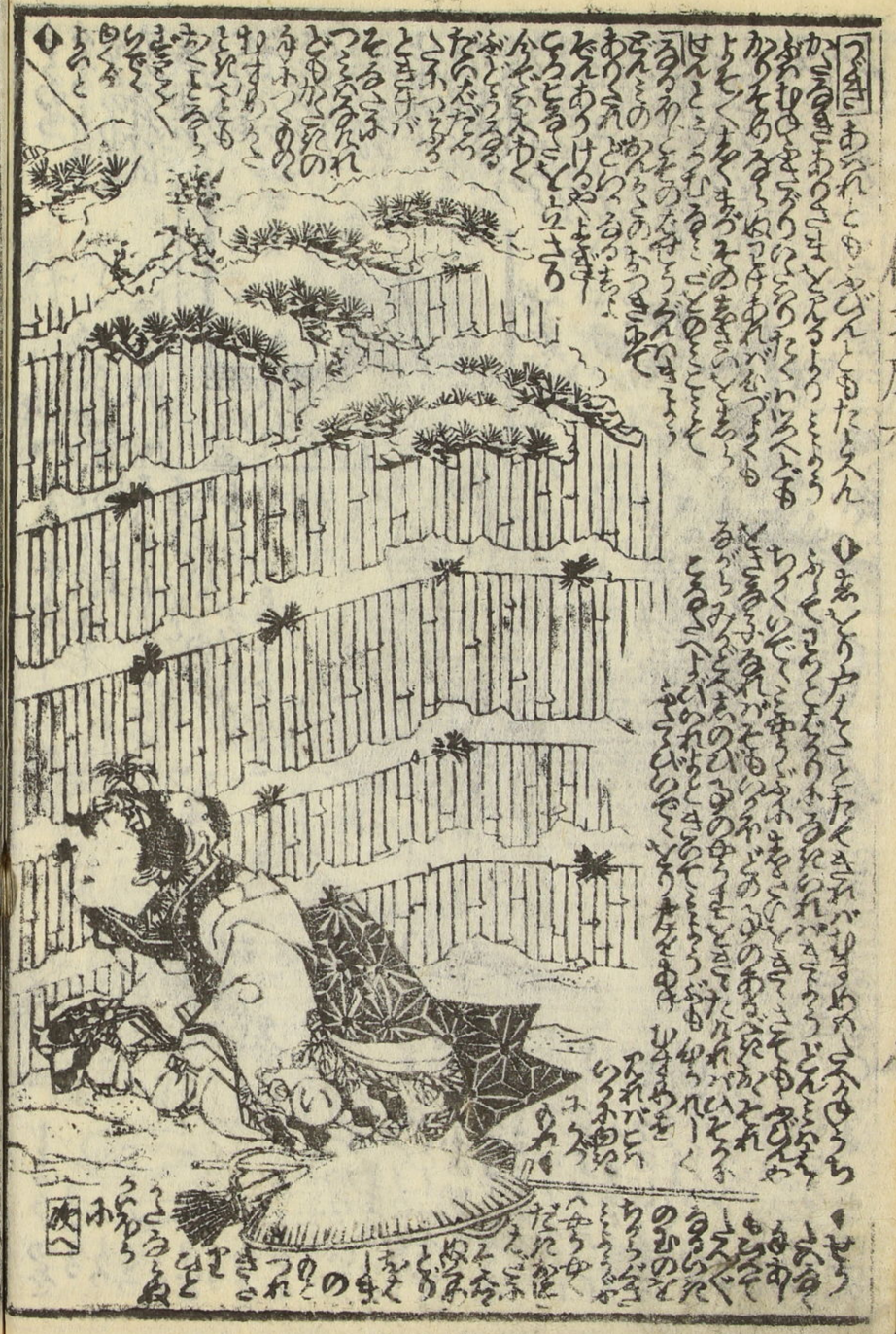
却て説も天上の浄居佛に悉達太子悟り祭り者して諸佛の本願と忘失せん乎と疑ひ或は病者或は死者と貌を変じ一二回来りてこれを試ふ物に擬へ事に摸て修行の翁と二役兼癖詞那麻國王の愛女と馬将軍の嬢ふ苟且の仮の浮世の假字章も思ひの外ふ行いるれば氣い張弓の鳴許がまくも看官の的と狙ひ予が戯意も已了六編先とれまでハ通し失の當る今春此板のれ評判を葉のこ

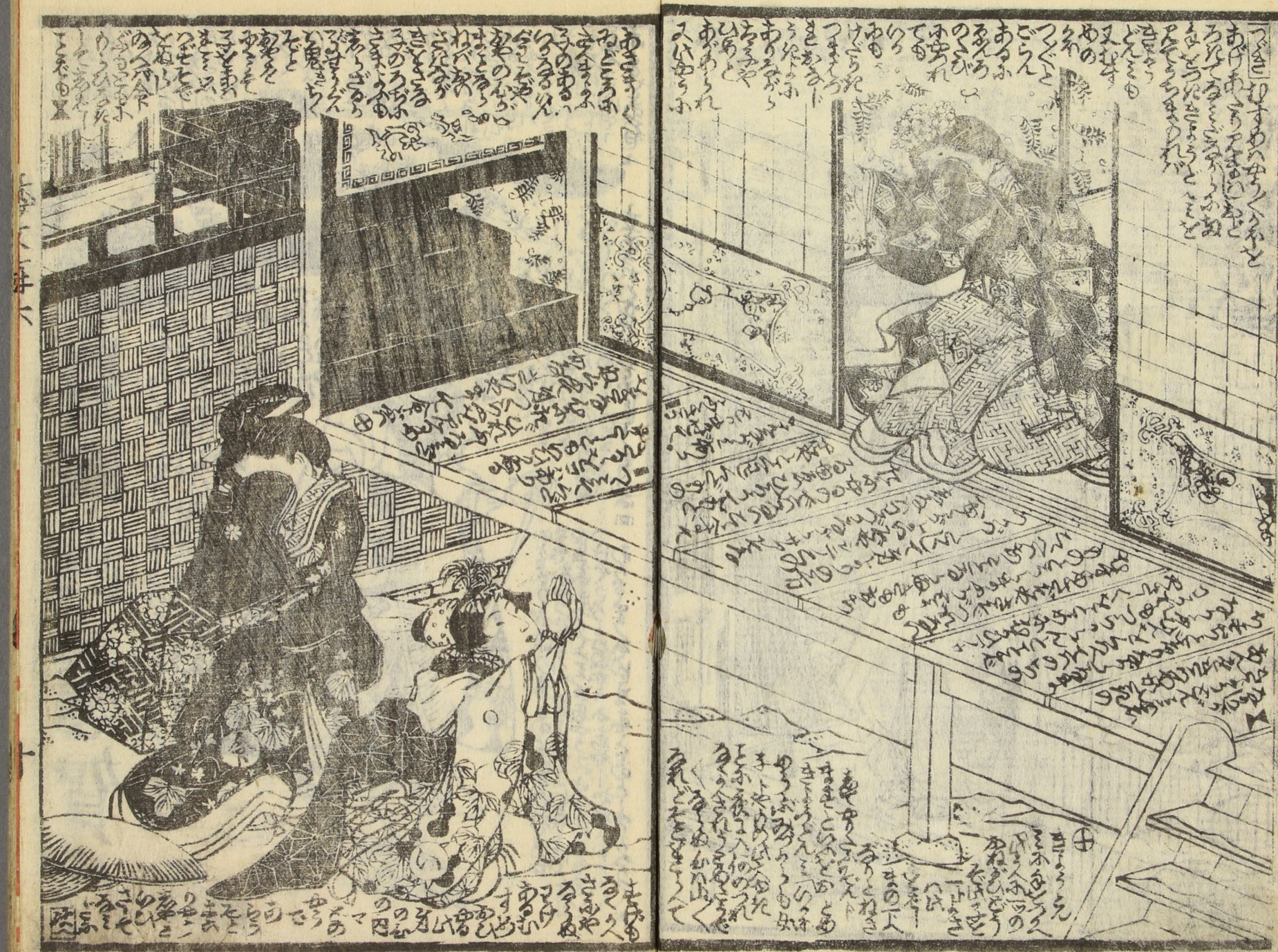
弘化四年初春　万亭應賀誌

月景殿輪晨雲
弥の方に附役
馬将軍

摩訶那麻手國王の息女
鹿野女馬将軍の嬢子

轎曇弥の方





回 安政三年丙辰春新板目録 回

倭文庫 三十四編 三十五編 三十六編 三十七編 万亭應賀作 一陽齋豐國画
赤松譚 九編 十編 如淵外史作 同画
重井菱 六編 七編 為永春水作 同画
譚柄璃璃舞 四編 五編 西澤一鳳作 一勇齋國芳画
茶番案文 全冊 万亭應賀作 一陽齋豐國画
神代そろは茶 三編 四編 同 一勇齋國芳画

金重本類錦繪 人形 上州屋重藏

倭文庫六編

錦重堂版

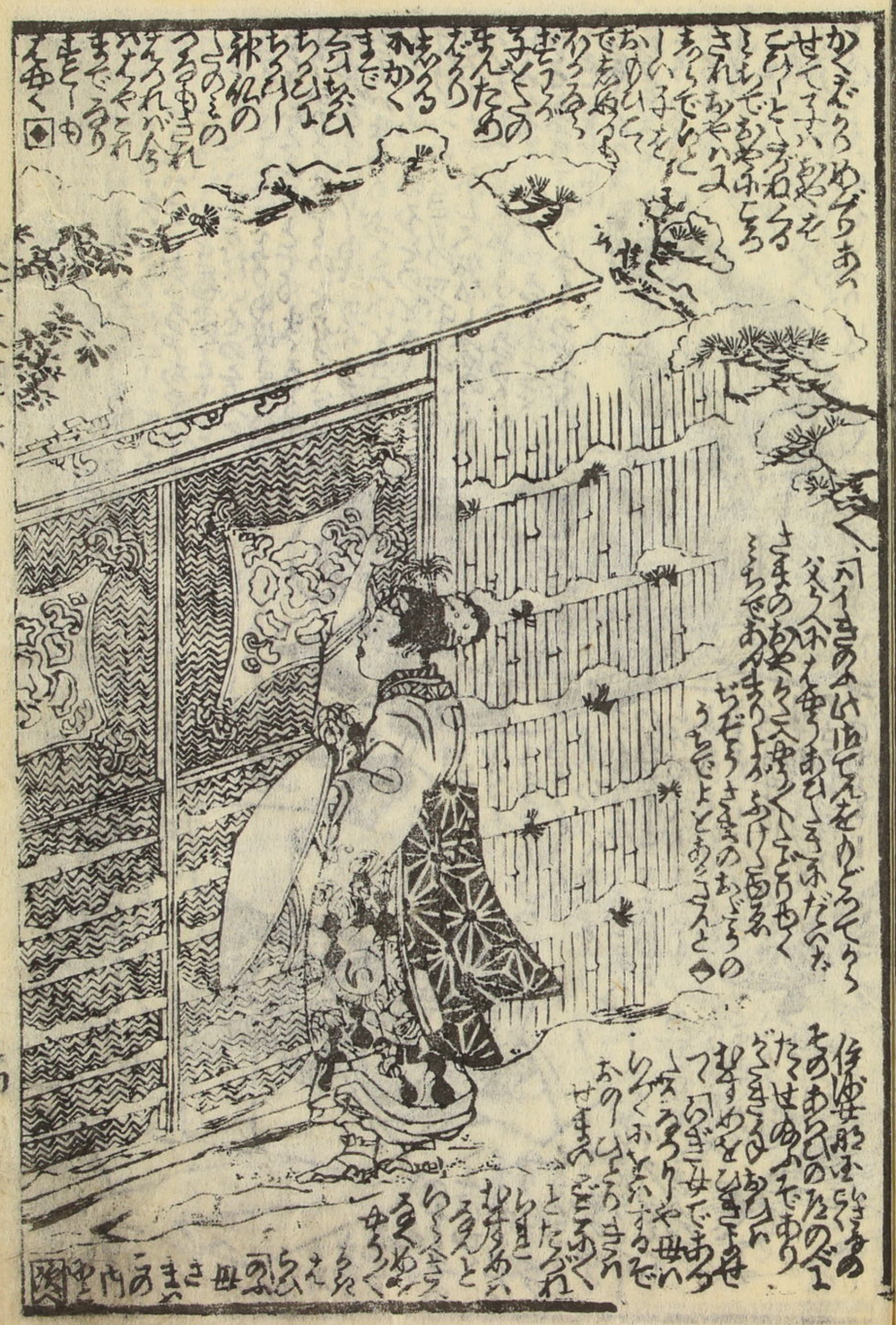
下

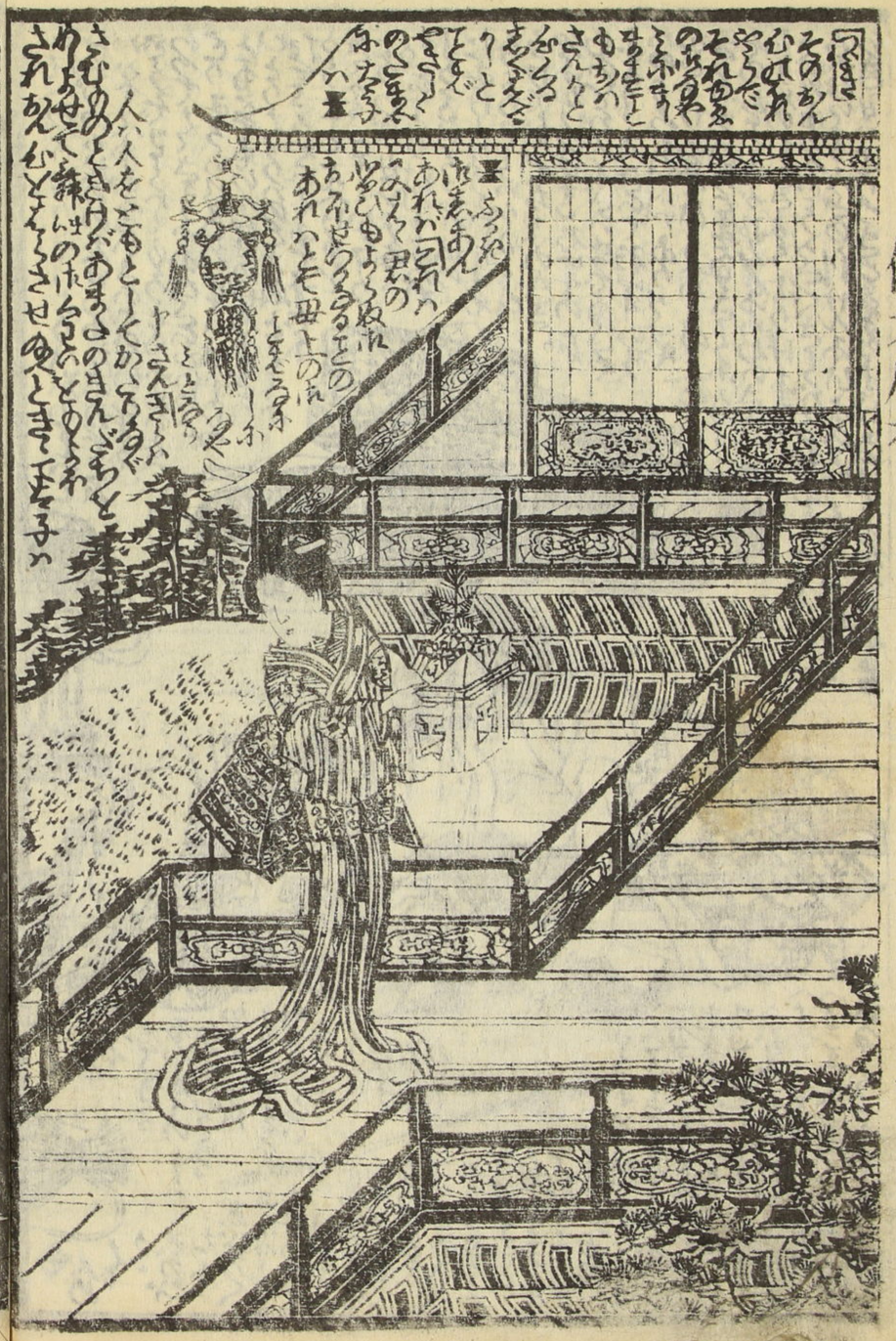
大和
よ屋
ゑ
の
下

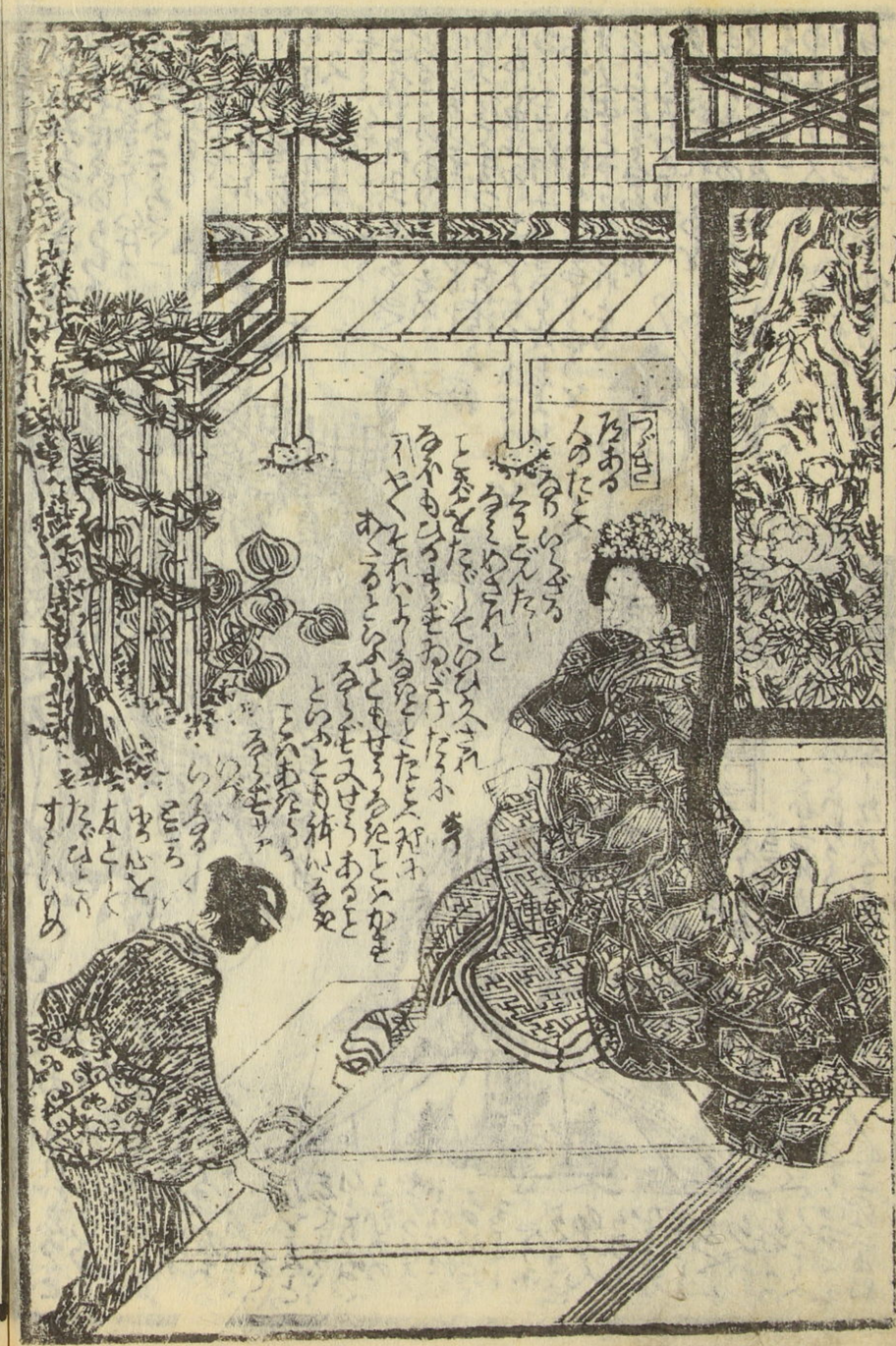
おめでたく
賀をとく

やまと園画

上方屋
摂

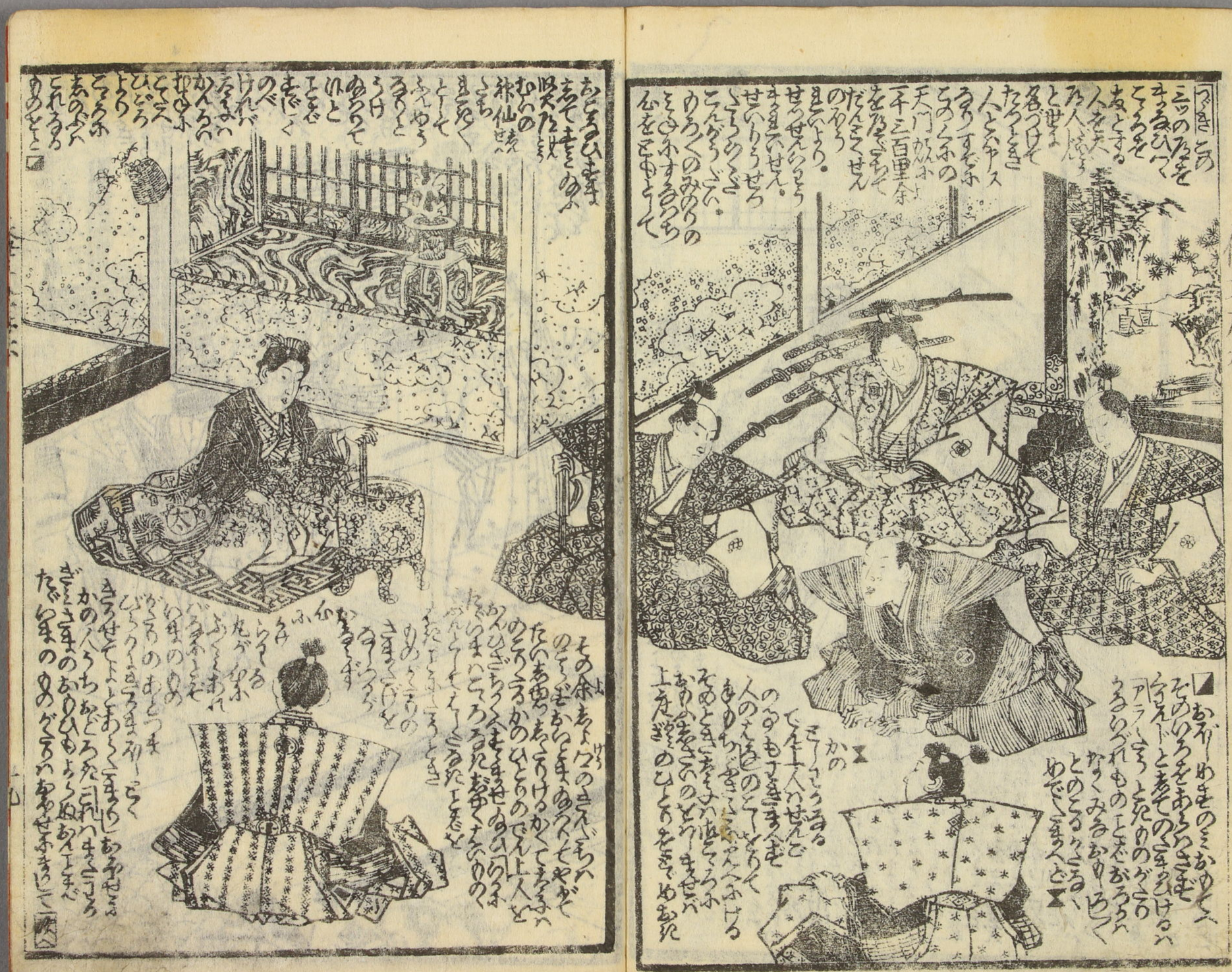






つづき

つづき



一陽齋豐國画 ○ 万亭應賀作 ○

○いづれも七へんハへんりづき出板仕候
おろかなる所ゑ初と御く年寿の板元

倭文庫出世双六　万亭應賀作　一陽齋豐國画

春の手遊　将棋双六　同　歌川貞房画

男女振合　役替双六　当年の方角を極る　同　一陽齋豐國画

大寶御江戸圖　極上摺　奉書六枚半續　外ハ御江戸名所仕立

清元稽古本　初編　二編　出板

常磐津懐中本　初編　二編　三編　四編　追ゝ出板仕候

極上摺　百枚掛　擬百人一首　昆陵撰百枚掛仕立　一陽齋豐國合　東齋國芳　古齋廣重　筆

茶道秘訣